

報道各位

# NEWS RELEASE



2010年12月2日(木)  
株式会社ぐるなび  
(コード番号 2440 東証第一部)

株式会社ぐるなび

## 2010年度(第10回)「ポーター賞」受賞

外食の“オフィシャルサイト”として高く評価

飲食店情報検索サイト「ぐるなび」を運営する株式会社ぐるなび(東京都千代田区:代表取締役社長:久保征一郎 以下、ぐるなび)は、このたび、独自性のある戦略により高い収益性を維持している企業を表彰する「2010年(第10回)ポーター賞」※1を受賞いたしました。



このたびの受賞は、飲食店に対しての販促支援だけでなく、経営支援までの様々なサービスを提供しつつ、消費者に対しても外食に関わる行動の標準ステップとなった点が高く評価されたものです。

授賞式は12月2日(木)に経団連会館にて開催されました。当日はマイケル・ポーター教授※2が来日し、授賞式に先立ち特別セミナーを行い、授賞式ではポーター教授による受賞理由の説明も行われました。

今回、この名誉ある賞を受賞できたことを当社の誇りと励みにして、これからも日本の外食産業発展のために、様々なサービスを提供し続ける企業を目指します。

### 受賞理由

- ◆全国の飲食店に検索サイトを通じ、「飲食店のサポーター」として集客と販促の手段を提供している。
- ◆ICTベースのネットワークと、1,000人の営業系スタッフ、ぐるなび大学などに代表される人的ネットワークの2層を形成し、レストランの経営改善に繋がる情報を提供することで、飲食産業を活性化させている。
- ◆産地の活性が飲食産業の活性化につながるのと考えると、日本の食を豊かにするというミッションから、プラットフォームを生産者にまで広げ、生産者と飲食店、生産者と消費者を直接に結び付けている戦略の一貫性。

※1

ポーター賞は、製品、プロセス、経営手法においてイノベーションを起こし、これを土台として独自性がある戦略を実行し、その結果として業界において高い収益性を達成・維持している企業を表彰するため、2001年7月に創設された。

※2

マイケル・E・ポーター教授は、ハーバード・ビジネス・スクールに属する、ハーバード大学ウィリアム・ローレンス・ユニバーシティ・プロフェッサー。競争戦略論と国際競争力研究の第一人者であり賞の名前の由来となっている。

<本件に関するお問い合わせ>

株式会社ぐるなび 総合政策室 広報：栗田、我妻、沖田

MAIL: [pr@gnavi.co.jp](mailto:pr@gnavi.co.jp) TEL: 03-3500-9700 FAX: 03-3500-9743

## 【参考資料:ポーター賞について】（ポーター賞運営委員会資料より抜粋）

### ■ポーター賞の目的

ポーター賞は、日本企業の競争力を向上させることを目的として創設されました。そのために優れた日本企業を表彰するのです。日本企業は70年代と80年代における全社的品質管理(TQC)や継続的改善(カイゼン)運動を始めとして、世界における業務の効率化競争において、長年にわたりコストと品質面における優位を享受してきました。しかし、近年、この競争モデルには限界があることが、より一層明らかになりつつあります。日本企業は、品質による競争に留まるのではなく、戦略とイノベーションによる競争に移行するべきです。日本が競争力を取り戻すためには、日本企業は真の収益性をもたらすような独自性のある戦略を作り上げるべきなのです。

1950年代以降、日本は低価格だけで競争することをやめ、品質で競争するようになりました。それは、1951年に日本科学技術連盟(JUSE)がデミング賞を創設したことによって全国的な品質運動が始まった結果でした。50年前にデミング賞が日本で品質に対する全国的な運動を始めたように、今日、この戦略に対する新しい賞が、戦略という新しい運動が始まるきっかけになれば、と願っています。

### ■ポーター教授とは

マイケル・E・ポーター教授は、ハーバード・ビジネス・スクールに属する、ハーバード大学ウィリアム・ローレンス・ユニバーシティ・プロフェッサーです。ユニバーシティ・プロフェッサーとは、ハーバード大学の教員に与えられる最高の名誉であり、この名誉を与えられた教員はポーター教授を含め、ハーバード・ビジネス・スクールには15人しかおらず、彼は4人目にその名誉を与えられました。

ポーター教授は競争戦略論と国際競争力研究の第一人者であり、17冊の本と125の論文の著者でもあります。ポーター教授の戦略論に関する主な著作には、Competitive Strategy: Techniques for Analyzing Industries and Competitors (1980日本ではダイヤモンド社から『競争の戦略』として翻訳が出版されています)、The Competitive Advantage of Nations (1990、『国の競争優位』ダイヤモンド社)、Can Japan Compete? (2000 『日本の競争戦略』ダイヤモンド社)などがあります。ポーター教授は米国はじめ様々な国々で多くの企業や政府機関のアドバイザーとして活動しています。また、8つの名誉学位を始めとして、教育と研究の両面において多くの賞を与えられています。

### ■ポーター賞はどのようにして作られたか

一橋大学が2000年に新しく開設した大学院、国際企業戦略研究科(Graduate School of International Strategy: 略称ICS)の開校記念式典に、20年来の関係を持つポーター教授が招かれました。ポーター教授はこの年、一橋大学のために2度の来日をしています。一度は、4月にICSが日本語で夜間に行なうプログラムが開校する際に、二度目は10月にICSが昼、英語で行なうプログラムが開校する際でした。ポーター教授は、このような基調講演の他にも、様々な活動を共にするために多くの時間を善意で提供してくださいました。そのポーター教授の厚意に感謝し、また、教授の長年にわたる競争戦略の理論と実践の研究への熱意を支持するために、一橋大学大学院国際企業戦略研究科は、競争戦略の理論と実践を日本に広めるための賞を創設することを提案したのです。

## ■一橋大学大学院国際企業戦略研究科(ICS)の役割

日本科学技術連盟がデミング賞を創設して50年が経った2001年に、一橋大学大学院国際企業戦略研究科(ICS)はポーター賞を創設しました。JUSEがそうであったように、ICSはポーター賞の運営組織として活動します。

## ■ポーター賞は他の賞と何が違うのか

ポーター賞は、独自性のある戦略によって競争に成功した日本企業や事業部に贈られます。戦略の本質は他者と違うことをすることです。したがって、製品やプロセス、マネジメント手法におけるイノベーションを起こすことによって独自性のある価値を提供し、その業界におけるユニークな方法で競争することを意図的に選択した企業や事業を評価します。戦略とイノベーションにのみ注目している点が日本にある他の多くの賞との違いです。

## ■過去受賞社

	企業の部	事業部の部
2001	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 松井証券</li> <li>■ マブチモーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キヤノン レンズ事業部</li> <li>■ HOYA ビジョンケアカンパニー</li> </ul>
2002	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 武田薬品工業</li> <li>■ アスクル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オリックス 一般ファイナンス事業部門</li> </ul>
2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スルガ銀行</li> <li>■ セブン-イレブン ジャパン</li> <li>■ トレンドマイクロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ シマノ バイシクルコンポーネンツ事業部</li> </ul>
2004	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大同生命</li> <li>■ フェニックス電機</li> </ul>	
2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大洋薬品工業</li> <li>■ バンダイ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ベネッセコーポレーション 教育事業グループ</li> <li>■ 堀場製作所 エンジン計測システム機器事業</li> </ul>
2006	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ガリバーインターナショナル</li> <li>■ ブックオフコーポレーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本電産 精密小型モータ事業</li> </ul>
2007	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ カイハラ</li> <li>■ マルホ</li> <li>■ 良品計画</li> </ul>	
2008	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オイシックス</li> <li>■ 東海バネ工業</li> <li>■ マニー</li> </ul>	
2009	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロパティデータバンク</li> <li>■ ポイント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パーク・コーポレーション 青山フラワーマーケット事業</li> <li>■ ファーストリテイリング ユニクロ事業</li> </ul>